

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和 6 年度 第 1 回相模原市スポーツ推進審議会		
事務局 (担当課)	市民局 スポーツ推進課		
開催日時	令和 6 年 1 0 月 2 5 日 (金) 午後 3 時 0 0 分～午後 5 時 0 0 分		
開催場所	相模原市役所 会議室棟 1 階 第 1 会議室		
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	5 人 (スポーツ推進課長 スポーツ施設課長 他 3 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由	/		
会議次第	1 あいさつ 2 議 題 (1) 副会長の選任について (2) 相模原市スポーツ推進計画の進行管理について 3 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり（○は委員の発言、●は事務局の発言）

1 あいさつ

開会に先立ち、スポーツ推進課長からあいさつを行った。

2 議題

（1）副会長の選任について

委員互選により、相模原市スポーツ推進連絡協議会の上條委員が選任された。

（2）相模原市スポーツ推進計画の進行管理について

事務局から各基本方針の資料説明を行った後、次のとおり発言があった。

【基本方針1】

- （安井会長）令和5年度の目標値に対しては、達成率はほぼ100%である（だがB評価）。100%でないのでA評価にはできないというのは世知辛い、向上する余地がある、という意味でいいのではないかとも思う。ご意見はどうか。

（他の委員からの発言は無し）

- （安井会長）さかのぼっても、質問をしてもよいのか。

- （田内主任）気づいた点があれば、その都度さかのぼって質問していただいても構わない。

【基本方針2】

- （安井会長）前年に比べて数値は上がり、B評価であるものの、広く周知し、ボランティアを行う人を増やすことが必要である。イベントの活性化においてはボランティア人材が必要となるし、教育的な価値のあるボランティア活動が活発になることが、社会生活を営む上で必要となる。仮に、相模原市のボランティア参加割合の高さが話題になれ

ば、より進んだ市と認識されるだろう。

- （石沢担当課長）補足をさせていただく。アンケートの設問内容にあるボランティアとは、参考資料（基本方針2）にある（1）から（4）の活動を指し、それぞれの活動を行っている場合に「はい」と答えていただくものである。

- （安井会長）他にご意見はどうか。

（他の委員からの発言は無し）

【基本方針3】

- （安井会長）「週3回以上」の基準により、数値が下がっているという予測は立つ。基準を「週2回以上」に変更すると、数値が変わるかもしれない。習い事を例に出せば、息抜きのため、親が週に1回の休みを入れる状況も考えられる。令和2年度からのアンケートだが、柔軟にダブルスタンダード的にアンケートを取り、前のデータが活用できるように、例えば「週2回以上」と「週3回以上」でアンケートを取るなど、取り方を少しアレンジしていただけないか。成果指標1によると、子供たちはスポーツがすごく好きだ。好きなのにやらないのはおかしい。成果指標1と成果指標2の逆転現象が起きており、ものさしの違いによりこういった結果が出ていると予測する。

- （高橋委員）この「スポーツ」は決められた競技なのか。子供は休み時間や昼休みにはたくさん動いており、運動に親しんでいる子はたくさんいると考える。そういう時間を入れ込むと、それを毎日毎日やっているわけだから毎週ずっとある。そのような事情も計画の中で考慮したほうが良い。

- （安井会長）高橋委員のおっしゃるとおり、実際にスポーツ種目をやっていなかったら「(スポーツを) やってない」となると思う。ただ、スポーツ種目に限定しないと物差しを定められないという側面もある。逆転の発想をすると、都会育ちの子供は、スポーツ種目があることで、運動する機会ができる場合もある。例えば、少し内向的な子が、スイミングクラブに入ったことで運動するという事例がある。今いただいた意見は非常に大事な意見なので、何か工夫をして、そういった活動も測れるような方法を検討いただけると、より詳しい数値が上がってくる。いただいた意見はぜひ検討課題として考えた

い。

○（鈴木委員）数字の話だが、細かくみると「週3回以上」の数値が減り、「(スポーツを)行ってない」の数値が上がったのは小学生だけ。簡単に言ってもいいかわからないが、小学校6年生が抜けて小学校1年生が入ったからとか、コロナの影響により、遊んでいた傾向にある生徒が遊ばなくなったからとかいろんな可能性が推測できる。学年ごとの数値はわかるのか。

●（田内主任）担当課に確認したら分かるかもしれない。

○（鈴木委員）そこまで読み取れるデータが確認できると、見えるところがあるかもしれない。

○（齋藤委員）最近、子供が生まれ、「子供はこんなにも親がつかないといけないことが多いのか」と感じた。中学生の数値がほぼ変わっていないのは、中学生は自分でできるため、小学生に、保護者が週3回つける環境があるのか、というところで、共働きも増えている中で、子供がスポーツをしたくてもできない要因があるのではないか。そういうところのサポートも必要だと考える。

○（安井会長）まさに、お子様を抱えていらっしゃる点で、非常に現実感のある話題だ。私自身も経験があるが、親が子どもを連れて行く際に、祖父母の助けがあると非常に助かった。しかし、共働きの家庭では、仕事を抜けるのは難しく、特に子どもが帰ってくる時間帯は、特に仕事が忙しい。

こうした現実を考慮したアンケートを設け、「相模原市はこんなフォローをします」と言ってもらえると、子どものスポーツ参加率が向上すると思う。地方都市が抱える問題も、相模原市であれば解決できる体力や人材があるのではないか。例えば、シルバー人材の活用なども含めて、市長にお伝えしたい。

【基本方針4】

○（安井会長）ホームタウンチームの観客数や周知、「おらがチーム」という意識の醸成について、市として取り組む必要がある。観客数は増えているが、チームごとに増減が見られ、これはチームの活躍に関係している部分もあるかと思う。

プロスポーツでは、強くても弱くても応援する熱意を持ったコアな応援団の存在が重

要だ。私は広島出身だが、広島では野球が生活の一部のようになっている。弱くても怒りながら応援する、そうした「身内感」がでるとパイロットモデルに変わってくるのではないか。相模原市だからこそ、それが活かせるところがあるかもしれない。

○（高橋委員）観客数が2020年から2021年にかけて大幅に増加しているが、この要因は何か特別な施策があったか。

●（石沢担当課長）外部的な要因によるのではないか。コロナ禍で無観客試合や定員制限があったが、それが解除されて、観客数に反映したものと考えており、市の施策で直接的に影響を与えたものではないと思う。

○（安井会長）個人的には、ギオンスタジアムの風の対策について改善をお願いしたい。陸上競技では風が記録に大きく影響する。例えば鳥取の競技場では風を遮るための壁を設置しており、その開閉で風の影響を加減している。相模原市でもそうした対応ができれば、陸上競技のメッカになれるのではないか。スタジアム自体は素晴らしい施設だが、こうした工夫が必要だ。

○（勝又委員）ラグビーをしていた経験があるので、風の影響には共感する。また、補給廠跡地の活用等で、受け皿さえ作れば観客動員数は当然増え、市としての収益増加やスポーツ振興につながると思う。

【最後に】

○（安井会長）本日の内容に対する審議会としての意見は、私と事務局で取りまとめ作成するので、一任していただくことでよろしいか。

（他の委員から異議はなし）

●（石沢担当課長）本日頂戴した意見などを踏まえ、スポーツ推進計画に掲げる目標の達成に向けて取り組む。第2回審議会を来年3月下旬に予定しているので、ご承知いただきたい。

以 上

相模原市スポーツ推進審議会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠席
1	安井 年文	学識経験者（青山学院大学教授）	会長	出席
2	鈴木 秀知	学識経験者（桜美林大学教授）		出席
3	齋藤 仁美	学識経験者（トップアスリート）		出席
4	高橋 修一	公募市民		出席
5	木村 有美	公募市民		欠席
6	西岡 直子	（一社）相模原市医師会		欠席
7	勝又 修	（公財）相模原市スポーツ協会		出席
8	篠原 真	相模原市小・中学校長会代表者会		欠席
9	岩永 謙治	相模原市PTA連絡協議会		欠席
10	上條 利夫	相模原市スポーツ推進委員連絡協議会	副会長	出席
11	岡本 和茂	相模原市公民館連絡協議会		出席
12	吉原 君子	（特非）相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
13	市川 裕子	総合型地域スポーツクラブ （あそべる大沼クラブ）		出席
14	古藺 雄士	ホームタウンチーム （ノジマステラ神奈川相模原）		出席